

教科等研究会（小学校音楽部会）

平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」
 （仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	実技	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	15名	広安小	8/6	広安小	研修会	9/25	甲佐中	村岡美紀子 教諭	1/24	木倉小	西田由香里 教諭

3 研究の概要

（1）研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

新学習指導要領にある『主体的・対話的で深い学び』とは何か。この実現に向けて、我々はどのよう迫っていくのかが、これからの研究課題となってくるであろう。しかし、それは0からのスタートということではなく、むしろ今まで我々が研究し培ってきたことが最大のヒントであり、それらを今後も大切にしながら研究を深めていくことが大切だと感じている。そこで本年も研究の軸は大きく変えてはいない。

「音楽のよさを感じ取る」とは、音や音楽を形作っている要素（共通事項）とその働きで捉え、それらの価値を確認することである。新学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

「思いや願いをもって表現する」とは、共通事項をもとにして表現に対する明確な考えをもち、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、まさに「生き生きと表現する」姿であると考え。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組み（共通事項）をもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの姿を目指した。

② 研究の実際

ア 実技研修会

「音楽科におけるICT機器を活用した指導法の工夫」

講師：熊本市立託麻原小学校 高木 範貢 先生

昨年度から、効果的なICT機器の在り方について部会で研究を深めている。教科の特性上、見えない音を視覚的に捉えたり表現したりするツールとして、たいへん効果的であることを学ぶことができた。積極的に音楽に関わろうとする姿、また児童相互が関わりながら、学びを深める姿の実現ため、今後の指導法に生かすべく、実技研修会を企画した。各領域の学習の中で、教師自身が「やってみよう」「できそう」と実感できるような具体的な活用方法を学ぶことができた。

イ 研究授業① 中学校第1学年「歌詞の内容や曲想を味わい、合唱の表現の工夫をしよう。」

指導者：甲佐町立甲佐中学校教諭 村岡 美紀子 先生

本題材では、情景を思い浮かべ、音楽の要素や仕組みに着目させて表現を工夫させていく学習であった。表現の工夫の段階で適切に言語活動を取り入れたことで、生徒一人ひとりの思いや願いが生かされた授業であった。また、学習の始めに歌声を録音しておき自分たちの課題をつかませたり、終末で再度録音

したものや聴き比べたりして「できた。分かった。」を実感させるなど、ICT 機器を効果的に活用することもできていた。

ウ 研究授業② 第5学年「変奏曲を楽しもう～ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章～」

指導者 御船町立木倉小学校教諭 西田 由香里 先生

本題材は、曲全体の雰囲気を感じ取って聴いたり、曲の流れの変化について音楽を形づくっている要素を手がかりに聴き取ったりすることをねらいとした学習であった。主題が変化していくことに着目し、情景が移り変わっていく様子について、音楽を形づくっている要素を関連付けて考える姿があった。変奏曲の楽しさを存分に味わうことができていた。

(2) 成果と課題

(成果)

- どの回もテーマに沿った取り組みで、大変学びがあった。特に、ICT の効果的な活用の在り方について、勉強になった。
- 中学校との連携がとても良かった。これからも継続したい。
- 本研究会では、特に鑑賞領域での積み上げが大きい。平成32年度の熊本県音楽教育研究大会では、鑑賞の授業も行い、ぜひ見ていただきたい。

(課題)

- 行事の関係で、中学校の研究会に参加できなかった会員がいた。小学校の行事関係と中学校とのすり合わせが難しいが、連絡調整を密に行っていく必要がある。
- 西田先生の授業から、よく内容を精選し、学ばせるところをしっかりと絞り込んであることを感じた。来年度の夏季実技研では、そのノウハウや、児童が「分かった」「できた」を実感できるような手立てについて学びたい。
- 事前研究会へ会員が参加しやすいように、今後も開催日や時間等を工夫していきたい。
- 来年度のテーマは、熊本県音楽教育研究大会のテーマに寄せて設定していく。
- リコーダーの指導法を学びたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第5学年鑑賞「変奏曲を楽しもう～ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章～」

指導者 御船町立木倉小学校教諭 西田 由香里 先生

(授業研究会より)

- 今回の授業では、曲を構成する音楽の要素をしっかりと感じ取らせることができた授業だった。低学年からの積み上げが大事だと感じた。
- 板書の構成や手立てが、子どもたちにとって、とても分かりやすいものになっていた。
- ハンドサインの良さも感じる授業だった。指導を見なおしたい。
- ICT が効果的に活用されていて、子どもたちが生き生きと楽しそうに活動していた。
- 『わかると楽しくなる』を痛感した授業だった。また、“教えるべきことは教え、自分で学ぶべきところは学ぶ”ということを学んだ。

(2) 学習指導案

1 題材名 変奏曲を楽しもう

教材名 ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章 (シューベルト作曲)

参考曲 歌曲「ます」 (シューベルト作曲)

2 題材について

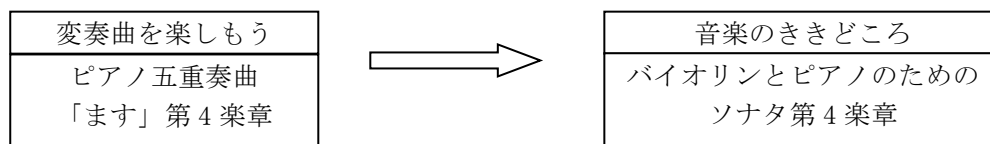
(1) 題材について

本題材は【B鑑賞】「イ音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」「ウ楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」に関する内容である。

教材「ます」は、1819年にシューベルトが自身で作曲していた歌曲である。「ピアノ五重奏曲『ます』第4楽章」は、「ます」の旋律を主体とし、6つの変奏を含んだピアノ五重奏曲として作曲したものである。この曲は一般的なピアノ五重奏曲とは異なり、バイオリンを一つにして、ビオラ、チェロ、コントラバスにピアノが加わるという演奏形態をとっている。そのため、低音の響きがより一層充実している。

変奏曲とは、特定の旋律に、様々な方法で変化を加えながら音楽を展開していく楽曲形式のことである。この第4楽章は、主題と5つの変奏とコーダで構成されており、変奏の面白さと音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じとりやすい楽曲である。

(2) 本題材の系統



(3) 児童の実態 (男子11名、女子10名、計21名)

男女ともに元気のよい明るいクラスである。音楽に苦手意識を持つ児童がいるが、6年生との初めての2部合唱に意欲的に取り組んだり、理解した内容について積極的に発言したりできる児童も多い。表現において自分の思いや意図を持って表現することや鑑賞において音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みに着目して聴くことについては少しずつ学習してきているが、まだ経験が不十分である。

本題材では、音楽を形づくっている要素を手がかりに、変奏曲のよさや面白さに気づくことをねらいとしている。児童が主題に親しみをもち、自ら積極的に楽曲を聴く活動を取り入れることで、鑑賞の楽しさを味わわせたい。

(4) 指導上の留意点

- ・学習のまとめとして楽曲のよさを紹介文として書く活動を取り入れ、積極的な鑑賞の活動を図る。
- ・五重奏曲「ます」は、歌曲「ます」を主題とした変奏曲となっているので、歌唱を通して主題に親しみをもち、口ずさみながらその変化に気づくことができるようにする。
- ・各変奏を繰り返し聴くことができるよう、ICTを用いる。演奏している楽器を聴き取ったり、場面を想像したりするなどの聴く視点を与え、そのよさを味わうようにする。

3 題材の目標及び評価基準

(1) 目標

- ・主題の変化や伴奏の動き、楽器同士のかかわり合いをとらえ、変奏曲を楽しむ。
- ・主題や伴奏がどのように変化しているかを探りながら、曲想を感じ取る。

(2) 指導計画 (本時2/3)

時	ねらい	主な学習内容と活動	評価基準及び方法
1	変奏曲と主題の旋律を知覚・感受する。	○ピアノ五重奏、作曲者について知る。 ○歌曲「ます」を歌い、歌詞の意味を理解する。○ピアノ五重奏曲「ます」の主題、第1、第2変奏曲を聴き、変奏曲について知る。	楽曲の主題に関心を持って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】 (観察・ワークシート)
2 (本時)	主題を担当する旋律楽器や曲想の変化を感じ取る。	○弦楽器とピアノの音色の特徴を確認する。 ○第3、第4、第5変奏について、主題を演奏する旋律楽器の移り変わりや音楽を特徴づけている要素がどのように変化しているか聴き取る。 ○楽曲と関連づけ、想像した場面の様子を具体的に言葉で表現する。	音色、強弱、調、旋律、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや感じ取りながら、楽曲の構造に気をつけて聴いている。【鑑賞の能力】 (観察・ワークシート)
3	「ピアノ五重奏曲『ます』」の紹介文を書く。	○主題が変化していくことと情景の移り変わりが紹介文を書く。	感じ取ったことや想像したことを紹介文に表し、楽曲の特徴や面白さに気づいて聴いている。【鑑賞の能力】 (観察・紹介文)

4 本時の学習

(1) 本時の目標

変奏を分けて聴く活動を通して、主題を演奏する旋律楽器の移り変わりや音楽を特徴付けている要素を感じ取ることができる。

(2) 展開

過程	時間	主な学習活動 c 児童	教師の支援	準備
導入	1 2	1 音楽のスイッチオンタイムをする。 ・ 歌曲「ます」を歌う 2 前時の復習をする。 c バイオリンやビオラ、チェロ、コントラバスが出てきた。 c 五重奏曲。 c 変奏曲は、主題が変化しながら繰り返し出てくる。	○ 音楽の要素や作曲者について関心を持つような振り返りをする。 ○ ピアノの音色が「ます」を表していることを復習し、主題を意識させながら歌うよう指示する。 ○ 前時の学習内容（曲名、ピアノ五重奏、変奏曲、弦楽器、主題、歌曲の歌詞）を復習する。	テレビ 教師用タブレット
展開	5	3 本時のめあてをつかむ。		
		ピアノ五重奏曲「ます」の情景の変化を想像しながら聴くことができる。		
		4 変奏曲の主題を受け持つ楽器を確認する。	○ 主題を演奏している楽器を教科書で確認しながら、カードを並べる。 ○ コーダについては簡単に説明をする。	カード ワークシート
	1 8	5 第3、第4、第5変奏について、「ますが釣られる場面」を中心に曲想とその変化の特徴を探る。 ・ 主題を受け持つ楽器 ・ 音楽を形作っている要素の変化 ・ 想像した情景 c 速さをしっかり聴こう。 c 第4変奏が、「ますが釣られる場面」に違いないね。 c 速くなって、短調になったね。 c 第5変奏は、テンポがゆっくりになったから、きっとますが漁師に持ち帰られているみたい。	○ 第3、第4、第5変奏について、タブレットで音を何度も聞き比べられるようにする。 ○ グループで、ワークシートに聴きとったことや想像したことを書き込みながら鑑賞する。	児童用タブレット6台 ワークシート
			<p>評価</p> <p>B：情景の移り変わりを、音楽を特徴づけている要素と関連づけながら聴いている。</p> <p>Bに達しない児童への手立て：一つの要素に絞って説明をしながら一緒に聴くようにする。</p> <p style="text-align: center;">【鑑賞の能力】(観察・ワークシート)</p>	
まとめ	1 0	6 聴きとったことなどを発表し合い、全体でまとめていく。 7 一曲を通して聴き、確認しながら曲を味わう。 c 曲のことを学んで、最後に聴いた時凄いなと感じた。	○ 児童が聴きとったことや想像したこと、根拠となる音楽の要素などの言葉から「ます」の特徴としてまとめていく。 ○ 「ます」のどんな様子を思い浮かべたかを考えさせ、次時の紹介文を書く学習へつなげる。	